作品

俳優とヴァイオリニストによる
インプロヴィゼーション

2022.5.22. (sun.) 14:00 start (15:30 fin.)
at Cafe Flying Teapot / Ekoda, Tokyo

俳優 : 岡本 唯　ヴァイオリニスト : 加藤 綾子
主催 : インプロ・りぶる
予約・問い合わせ : yoak.yoak.2022@gmail.com

この『作品』について

作品とは〔名〕
作ったもの。製作物。特に、絵画や彫刻、詩歌や小説などの芸術上の製作物をさしていう。
引用 : 精選版 日本国語大辞典

本公演『作品 俳優とヴァイオリニストによるインプロヴィゼーション』では、全ての演目は**即興（フリー・インプロヴィゼーション）**で行われる。各パートの演目名は、それぞれのテーマであったり、簡単なルールにすぎない。詳しくは裏面、3P 以降の解説を参考にしていただきたい。
「この公演を分類せよ」と言われたら、答えは「演劇と音楽の複合公演」とか、そんなふうになるかもしれない。けれどもこの『作品』の制作者たちは、演劇と音楽、俳優とヴァイオリニストという両者を、どこまでも「同じもの」と思っている。別々だったものを後からひとつにするのではない。元々同じものを、ひとつの演劇／演奏／舞台／音楽／企画／作品として制作した。

岡本 唯は、俳優である。少なくともきょう、ここに現れる岡本唯は俳優として登場し、あなたたちの前で息をして、動いて、最初から最後まで「俳優」を演じ続けるはずである。
加藤 綾子は、ヴァイオリニストである。少なくともきょう、ここに現れる加藤綾子はヴァイオリニストとして登場し、あなたちの前で息をして、動いて、最初から最後まで「ヴァイオリニスト」を演じ続けるはずである。
あなたたちは、たぶんきっと、観客のつもりである。少なくともきょう、ここに現れるあなたたちは観客として登場し、私たちの前で息をして、動いて、最初から最後まで「観客」を演じ続けるはずである。

そしてそれ以前、私たちはまず、どうしようもなくヒトである。ひとりのヒトとして生きて死ぬし、ひとりのヒトとして物事を生み、成し、続け、殺している。その営みの中に、時々、みなが「作品」と呼ぶものがある。

透明な存在になりきれない私たちは、作品たりうるのか。
それが、大きく大きく、象の耳とかキリンの背中とか、それくらいの大きさでとらえた、本『作品』のコンセプトである。

出演者

岡本 唯

俳優。2013 年より時々自動のメンバー。2017 年結成のガールズロックバンド「YKK」では、うたとエレキギターを担当している。また 2022 年 3 月より、福名理穂が主宰する「ぱぷりか」にも所属。11 月に新作公演を予定している。Twitter @yui_paul63

加藤 綾子

ヴァイオリニスト。古典的レパートリーから新作、邦人作品、即興演奏などの実演・講座を行う。
これまでの録音に、1st アルバム『BAN』、ヴァイオリン独奏による即興演奏 17 本を収録した 2nd アルバム『昔』などがある。
Twitter @akvnimp

出演情報

【岡本 唯】作曲家・江村夏樹といろんな人によるコンサート
繁華街もある空間
6/14(火) 18:30 開場／ 19:00 開演　@ スペース Do（新大久保）
チケット : 予約 ￥2800 ／当日 : ￥3300 ／学生 ￥500

【加藤 綾子】林光、武満徹など 20 世紀邦人作曲家特集
真っ白い部屋
7/1（金）19:00 開場／ 19:30 開演
@ 渋谷区文化総合センター大和田 大練習室（渋谷）
チケット : 予約 ￥2,000 ／学生 ￥500

【加藤 綾子】3 年ぶりのソロ・リサイタル
正しい歩き方
9/25（日）【昼公演】14:00 開演【夜公演】18:00 開演
@ カフェ・フライングティーポット（江古田）
入場料 : 各公演 ￥3,000（1drink & プログラム冊子付き）

【岡本 唯】劇団ぱぷりか新作公演
どっか行け！クソたいぎい我が人生
11/27〜12/4 @ こまばアゴラ劇場（駒場東大前）
作演出 : 福名理穂（第 66 回岸田國士戯曲賞受賞）

プログラム

今日、ここに
生るまでの
『作品』

1. エンカウント

2. 岡本唯

3. 加藤綾子

4. エクササイズⅠ.

休憩

5. エクササイズⅡ.

6. 俳優とヴァイオリニストによる
フリー・インプロヴィゼーション

演目解説

1. エンカウント

はじまります。

2. 岡本 唯（おかもと ゆい）

俳優 : 岡本 唯による即興（演劇／演奏）。

3. 加藤 綾子（かとう あやこ）

ヴァイオリニスト : 加藤 綾子による即興（演奏／演劇）。

4. エクササイズⅠ.

今日の『エクササイズⅠ.』『Ⅱ.』は、いずれも演劇における演技法のひとつ、マイズナーテクニックのエクササイズを元にした即興（演劇／演奏）である。このメソッド演技法では、その場で実際に感受・反応し、空間や相手と関わっていく、ある "即興性 " が重要視されている。
『エクササイズⅠ.』は位置（ポジション）に基づくワークである。ここで演者は、「立つ・歩く・座る・横になる」の４つの行動のみを手段として、互いに影響をあたえ合う。例えば、A が B に２歩「歩いて」近づく。B はそれに対して「座る」。A はそれに対して今度は「立って」止まる。.....この繰り返しで、ふたりはひたすら、自分の衝動や興味に基づいて、空間における相手との位置関係を選択し、自分を配置していく。

5. エクササイズⅡ.

サンフォード・マイズナーによる演技メソッドの中で、最も基礎的なエクササイズ『レペティション（リピテーション）』。
お互いの状態・挙動をピックアップし、それを言葉にして繰り返すことで、思考ではなく、自分の衝動に基づいて反応しながら、相手と関わろうとするワーク。
繰り返す言葉は、気づきや衝動によって変えても構わない。

B「A さん、ふらふらしてる」
A「私、ふらふらしてる」
B「A さん、ふらふらしてる」
A「私、ふらふらしてる」「B さん、私のこと怖がってる」
B「私、A さんのこと怖がってる」

このように行動の自由度が大幅に広がった上に、言葉という手段が追加されたことで、より具体的な相手とのコミュニケーションが可能になる。
しかし、例えば楽器による即興演奏のように言葉を持たなかったとしても、その繋がりの強さが損なわれるというわけではない。むしろ深くなる場合もある。
楽器演奏者と俳優のレペティションとはどういうものか。向かい合ったとき、ただのヒトとヒトであるはずだ。

6. 俳優とヴァイオリニストによるフリー・インプロヴィゼーション

なぜ『作品』は即興（演奏／演劇）で行われるのか。
路上で突然、誰かがヴァイオリンを弾き始めたら、「あの人はヴァイオリニストに違いない」ときっと皆が思う。ヴァイオリンを弾く誰かの背景は関係なく、ただ「ヴァイオリニスト」という認知だけが瞬く間に広まり、その音楽だけが受け入れられていく。さもなければその人は、ただのヘンなヒトになってしまう。
大事なことは、ヴァイオリニストは決して、ある音楽を演奏している訳ではなく、「ヴァイオリニスト」という役を演じているだけで、その結果として音楽が生まれている。――そういう解釈だってできる。

即興――特に、何らかの歴史的文脈やスタイルに縛られない「フリー・インプロヴィゼーション」という行為は、たぶん、この世界に存在するあらゆる表現法の中で、もっともヒトがヒトのままでいられる手法だ。
即興を見る（聴く）時、それを行うヒト抜きでは理解できず、語ることができない。そのヒトを知ってしまったからこそわかってしまうこともあるし、知っているからこそ驚くこともある。知らなければ知らないほど、無色な体験ができるのかといえばそうでもない。私たちはどんなに知らない存在に対しても、自分が知っているものにカテゴライズしてしまう。
どんな音楽、演劇、文学、美術も、いま・ここで出力されている表現だけを取り出して「すばらしい作品だ」と述べたところで、それは、いつから、どこからが本当に作品なのだろう。本当に、目の前のものだけが作品なのだろうか。あなたは誰かの作品じゃないと、どうして言い切れるだろうか。

（文章 : 岡本 唯／加藤 綾子）

＃作品2022

『作品 俳優とヴァイオリニストによるインプロヴィゼーション』
公演中の

・写真撮影
・動画撮影
・撮影した写真・動画のシェア（SNS、ブログなど）

全て OK です！

無音カメラ
android 用

無音カメラ
iphone 用

写真・動画や感想をシェアする時は、

ハッシュタグ「**＃作品2022**」をお忘れなく！